



地域の発展のため会計士の果たすべき役割について意見を
 交わすパネリストら＝名護市、万国津梁館

公認会計士・西日本連合

財務報告の信頼回復を

沖繩で総会
 課題を議論 監査基準の補完も

日本公認会計士協会の西日本連合総会沖繩大会が17日、名護市の万国津梁館で開かれた。勝沼重起会長が「国際会計基準と監査」と題して講演したほか、小島庸匡副会長をコーディネーターに沖繩会や南九州会など各会の会長ら6氏が「地域産業の振興と会計士の役割」をテーマにパネルディスカッション。各会の活動や自身の経験を交え、活発に議論した。沖繩での開催は初めて。

勝沼氏は近年相次いでいる企業不祥事について「利益主義が横行し、企業内の倫理観が欠如、社内不正を防止できない。ルールな内部統制の実態

がある。会計基準や市場のルールが必ずしも明確でない」と指摘、財務報告の信頼性回復に向け、「健全な社風の育成と、経営者の財務報告責任明

確化、内部統制を監査する体制づくりが必要」と述べた。米国や欧州などで国際会計・監査基準との統合が進められている現状を

紹介した上で、日本の会計基準について「国際基準との比較で26項目の補完的措置が必要であることが分かった。監査基準では(国際基準と)ほぼ同等だが、監査時間や独立性の点で課題がある」と説明した。

パネルディスカッションで、協会元会長の中地宏氏は、東京都で複式簿記による会計制度導入し

た事例を挙げ、「住民が財政状況を評価できるように情報を開示を進める必要がある。自治体会計制度の導入や監査強化など会計士が果たす役割は大きい」と話した。

中国会の笠原壽太郎会長は自治体財政の厳しい見通しを示しながら「住民に分かりやすい財務資料を作って説明し、住民と行政の緊密関係をつくることが重要」と述べた。

パネリストからは、会計士が地域発展のため、行政も含め幅広く活動する必要性を訴える声が続いだ。

県三役
 動
 17日

仲里副知事 18時30分
 日本公認会計士協会第48回西
 日本連合総会懇親会

島袋名護市長 10時うみ
 のほし幼稚園卒園式、13時
 30分北部市町村会理事會、
 15時北部広域市町村圏事務
 組合理事會、16時30分北部
 市町村会総会、18時30分日
 本公認会計士協会西日本連
 合総会沖繩大会